

健診について

聴力

検査の目的	難聴の有無
使用機材及び備品	聴力計・延長コード
取扱いの注意	<ul style="list-style-type: none"> ・必ずケースごと運ぶ。 ・ケースのふたが開きやすいので完全にしまっているか確認する。 ・ヘッドホンなどの備品の取扱いには注意して運搬する。 ・できる限り別室を借りて設置する。借りられない場合は、できる限り静かな場所に設置する。 ・『聴力』の看板を受診者が見やすい位置に掲示する。
始業確認	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく設定されているか確認する 一般健診…1000Hz→30dB、4000Hz→40dB (学校健診…1000Hz→30dB、4000Hz→25dB) ・データが前回と大きく異なった場合、疑問を持ち再測定をする。
検査の手順	<p>(検査の前に)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2種類の音が出ることを説明する。 ・ヘッドホンを正しく装着させる。(赤→右耳、青→左耳) ・音が聴こえたら手元のボタンを押し、聴こえなくなったらボタンを離してもらうように説明する。 <p>(検査)</p> <p>右耳1000Hz, 4000Hz 左耳1000Hz, 4000Hz を各1回ずつ測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『次検査』ボタンを押し、“右”の”1000Hz”に合わせる。 「インタープター」ボタンを押して検査音を出す(2～3秒) ・同様に、“右”の”4000Hz”→”左”の”1000Hz”→”左”の”4000”と順に検査をする。 ・1000Hzは、まわりの雑音の状況により「+10db」を押す。
記録方法	<ul style="list-style-type: none"> ・受診票の”聴力”欄に”所見なし”か”所見あり”に○をつけ、担当印欄に押印する。 ・前回と結果が違う場合、もしくは前回値がなくて”所見あり”の結果が出た場合は受診者に確認をし、担当印欄の”確認”に○をつける。 <p>※確認方法※</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回”所見あり”が今回は”所見なし”→前は聴こえにくかったようですが、今回の検査では聴こえておりましたね。 ・前回”所見なし”が今回は”所見あり”→①ヘッドホンが正しく装着されているか もしくは (髪の毛が耳にかかっているか) 前回値がなく今回”所見あり”→ ②検査音をだしている時に、「今右(左)耳のほうから高い(低い)音が出ていますが聴こえにくいですか？」と確認する <p>※確認する際は周りの受診者に聞こえないように小さい声で話すこと。</p> <p>(検体依頼書への記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常、聴力担当者が検体依頼書への記入を行う。その際当日の血液依頼セット名を実施責任者に確認し、受診No.、氏名(カタカナ)、性別、依頼セット名を記入する。(年齢は不要) ・血液などの追加項目がある場合は、“追加項目欄”に記入する。

受診者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの音がうるさくないか注意する。 ・ヘッドホンがうまくあわない・周りが多少うるさい場合はヘッドホンを受診者に持ってもらい耳に強く押し当ててもらおう。その際は応答は返事でしてもらおう。 ・年配の方などで、検査の方法がわからずに検査がスムーズに行かない場合もあるが、常に丁寧な対応を心がける。
混雑時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・イスに腰掛けて待ってもらおう。 ・混雑時は、話し声などでうるさくなる場合があるので待っている人に対して丁寧に「検査中なので、少しお静かにお願いします。」と言う。 ・責任者に言って機器を増やす。
コース変更時の処置	<ul style="list-style-type: none"> ・聴力検査をやってほしいといわれたら、責任者に言う。 ・本来検査のない受診者が興味半分で聴力検査を希望した場合検査は行うがこの場合、受診票には記入しない。
その他留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑時は本来聴力検査の必要がない方もくる可能性があるのでコースの確認をしてから検査を行う。 ・検体依頼書を書く際は、受診票の受診番号を間違えないように注意して記入する。(必ずしも受診ナンバーの順番どおりに聴力検査に来るとは限りません) ・次の検査の案内を行う。 ・受診者が、“難聴”あるいは“補聴器の使用”を申し出た場合は難聴⇒“既知”、補聴器⇒“補聴器”のチェックボックスにそれぞれチェックする。 ・どれか一つでも“所見あり”になった場合は、今まで耳の検査について病院に行ったことがあるかを確認する。 行ったことがある → “既知”に○をつける。 行ったことがない → “確認”に○をつける。 <p>検査終了後、受診者の接触面(応答スイッチ、ヘッドフォン取っ手)をアルコール綿や次亜塩素酸水で消毒する。</p>
トラブル時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・うるさいからよく聞こえない →周囲の音があるので、あらかじめ大きめの音をだす旨を本人に伝えてから検査する。 1000Hzについては環境騒音モニターが常時赤く点灯する場合、“+10db”を押して検査する →周りの人に静かにしてもらおう。 場合によっては検査場所を変える。 責任者に連絡し、場所を変えたことを報告する。
故障時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・始業確認時、または検査の途中で機器の故障等があった場合は、直ちに責任者へ報告する
よくある質問	<p>Q:この検査の音にはどんな意味があるの？</p> <p>A:1000Hz…低い音 人間の会話する周波数と同じ。 4000Hz…高い音 工場などの機械音と同じ周波数 (大工さんなどでみぎききの人は右側で電気のこぎりなどを使うため右耳の4000が悪い場合がある。)</p>